

**事業所名** グループホーム宗堂さくら苑  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 3月25日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 民間教育機関講師  
資格・経験 介護支援専門員、ホームヘルパー2級  
B:現職 介護支援専門員  
資格・経験 社会福祉士、介護支援専門員、ホームヘルパー2級

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p><b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b></p> <p>・宗堂さくら苑の目指しているグループホームは ~「生きていて良かった」住み慣れた地でその人らしくありのままに穏やかな共同生活を送れるように支援するところである。この理念は装飾を兼ねてホームの各階に掲示されており、日頃から入居者並びにスタッフに徹底されている。また、スタッフは認知症介護に関する研修などにも積極的に参加している姿勢から、常に自己研鑽を忘れずグループホームの担う役割を頭だけでなく身体で理解していることがうかがえた。</p> <p>・「認知症」という疾患をひとつの個性と捉えることにより、十人十色である認知症高齢者を生活の面から理解し、入居者と向かいあって介護する姿勢が感じられた。認知症によって重介護になった場合でも、入居者一人ひとりがその人らしく「人としての普通の生活」が送れるような介護サービスが提供されている。実際に車椅子を必要とする入居者が多いが、スタッフは普通の生活を大切にしながら介護の専門性も発揮されていた。</p> <p>・「家族や自分が将来安心して過ごせるホーム」の実現を目指しており、入居者一人ひとりに寄り添った「家庭生活」の延長線上の介護サービスが行われている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p><b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b></p> <p>・リビングルームは南向きで日当たりがよく、自然光による採光ができていてとても明るく落ち着いて過ごせる空間であった。</p> <p>・衛生環境に特に配慮されており生活臭などは全く無く、日頃から気をつけて清掃を行っている効果が現れている。</p> <p>・ホームの広々とした間取りからとても開放的な雰囲気があふれ、入居者が管理されているという拘束感は一切なかった。</p> <p>・全体的に木の温かみの感じられるフローリングであるが、各居室とリビングには畳スペースも設けてあり時にはゆっくりと横になりくつろぐこともできる。</p> <p>・重介護の入居者(ストレッチャー使用)であっても居室に寝たきりにならないように、出来るだけリビングで皆と過ごせ孤立しないような心配りがなされ、入居者一人ひとりのことを考えた共同生活の支援が行われている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の間違った態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

**調評**

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

運営母体である医療法人近藤内科(外来診療 療養病床 通所リハビリ)に併設されており医療との連携が密にとれている。居宅サービスに位置する「グループホーム」としての家庭的介護に加えて医師・看護師を始めとした医療関係職との連携により、専門的な健康管理や疾病に対する処置・治療に迅速に対応できる点は入居者と家族にとって信頼の厚い介護サービスの提供となっている。

職員の労務管理が徹底できており、外部・内部研修を通じての人材育成に力を入れている。介護職員の人員配置が厚く、介護度の高い入居者に対して一人ひとり寄り添った介護サービスが提供できている。ミーティングなどを通じて現場スタッフの声を大切にしながら、介護のあり方を常に考える姿勢を持ち、スタッフ全員の方向性を一致させることで安定した介護サービスを提供している。

地域密着型のグループホームとして、地域の協力を積極的に得られるよう努力すると同時にさらに地域に貢献できるよう前向きに取り組む姿勢である。

施設・設備が充実している。共用空間・居室共に広いスペースが確保できており安全に生活できる。衛生環境にも配慮がみられ、日々の清掃はもちろん特に感染防止対策として各所にスプレー式手指消毒剤を設置するなどの心配りが見られた。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特になし

(前年度の評価調査による改善点に真摯に取り組み、様々な点での改善がみられた。現状に満足することなく常に向上心を持ってより良いサービスの提供に取り組んでいる点をぜひ持続していかれることを望む。)

現在の入居者の身体状況では不可能と思われる点が大いいため実現できていないが、ホーム自身の課題として挙げている地域密着型の施設として各方面の協力体制を整え、将来的には入居者の積極的な外出と地域交流が実現できるよう期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p><b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b></p> <p>・入居者一人ひとりの「認知症」という疾患をその人の個性として考え、個人の人格・人権・プライバシーを尊重しているホームである。特に各居室にトイレ・洗面台が設置されている点は排泄に関するプライバシーの保護に大きく貢献している。</p> <p>・入居者の過去の経歴・経験にも目を向け、個人を尊重しながら集団の中で役割を持って生活できるように支援している。入居者の発語(意見・要望)にしっかりと耳を傾け、その人のコミュニケーション能力に応じて時には筆談なども取り入れ、相手が納得できるまで話をする姿勢が見られた。</p> <p>・入居者の「生きがい」を支援する取り組みとして、趣味を發揮できる機会を作り、書道や絵画などの作品を共用空間に展示している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p><b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b></p> <p>・まず、スタッフ間のよりよい人間関係・信頼関係の構築が結果として質の高い介護サービスの提供につながると考え、事務長を中心に「働きやすい職場」作りを目指した労務管理が徹底されている。その現われとして過去1年間の退職職員はなく、皆継続して勤務しており、それぞれに経験を重ねベテランとして介護業務にあたっている。</p> <p>・認知症が進行し重介護の入居者が多い中で、管理者は常に「ミニ特養(施設)」にならないように心がけており、入居者一人ひとりがごく普通の生活が出来るように支援している。普通の家庭生活を送ることの素晴らしさと難しさを感じた上で、「グループホーム」の担うべき役割が十分理解できていることの象徴であった。</p> <p>・職員の外部研修への参加を積極的に支援し、また、法人内での内部研修(勉強会)などを実施して業務がマンネリ化することの無いよう常にスタッフのスキルアップを目指している。</p> <p>・過去の経験や苦労を今後の介護サービスに活かす努力を心がけており、問題発生・事故対策などについてはミーティングの中で徹底的に話し合い業務内容の点検と改善を行っている。</p>		